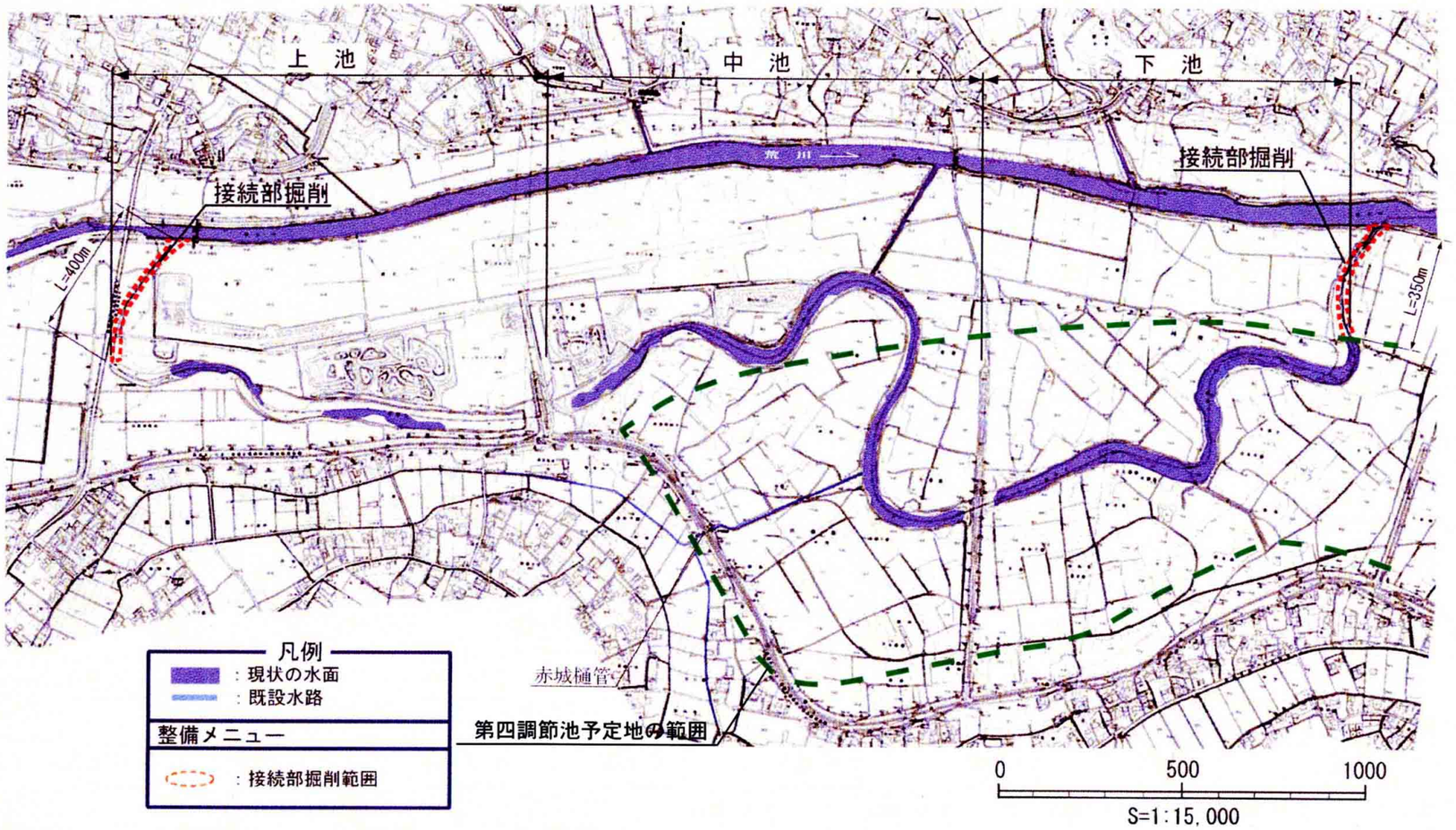
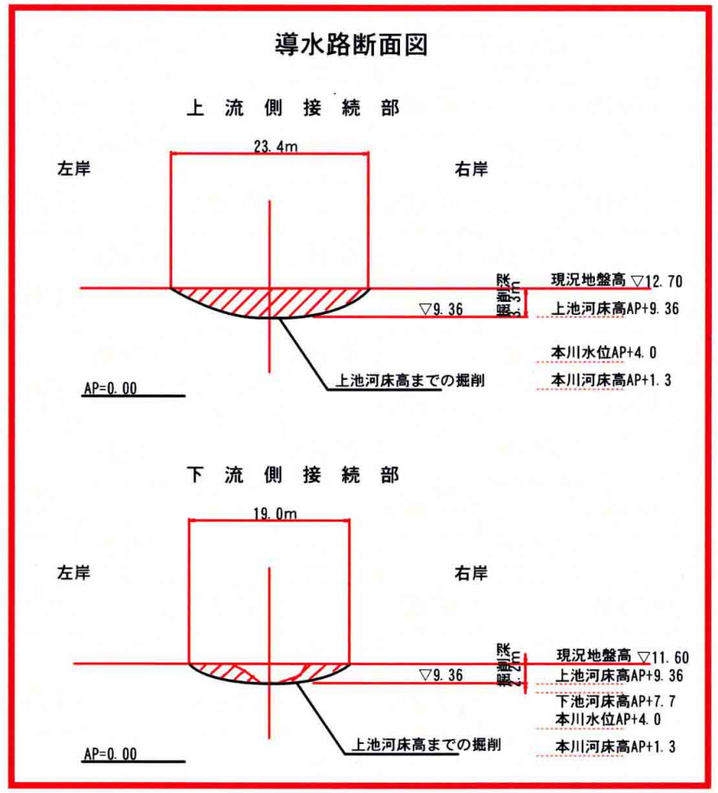
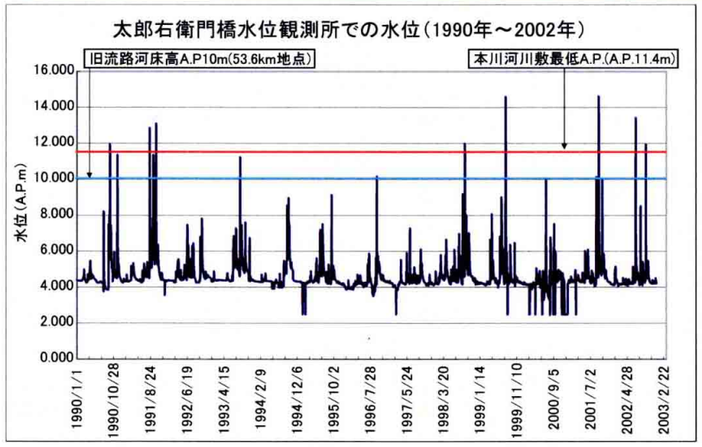
No. 2案 本川との接続（上池・下池部）

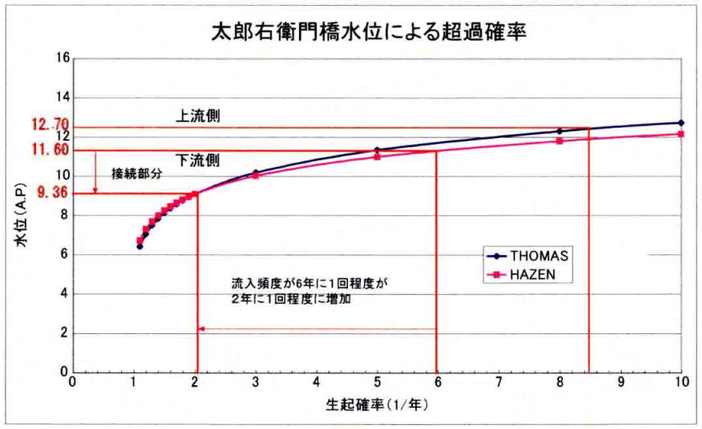
平面図



導水路断面図







目的	出水時に、荒川本川から旧流路への供給（冠水）頻度を高める。						
条件	水位の超過確率より現状1回/6年～1回/8年程度の冠水頻度を1回/2年程度まで上げる高さまで高水敷を掘削する。						
工事概要	上池上流端及び下池下流端に本川とつながる切欠きを掘削する。掘削高は旧流路河床高と同じ。						
維持管理	特になし						
工事費	導水路掘削工事	細別	単位	数量	単価（円）	金額（千円）	備考
		上池側導水路掘削（L=400m）	m^3	22,400	600	13,440	単価には、機械掘削積み込み、1km以内ダンプ運搬、仮置き場敷均し含む。
		下池側導水路掘削（L=350m）	m^3	7,000	600	4,200	単価には、機械掘削積み込み、1km以内ダンプ運搬、仮置き場敷均し含む。
		諸経費				8,860	直接工事費の50%と仮定し、端数を調整。
		工事費合計				26,500	
長所	・治水上問題はない。 ・動力を用いない水供給となる。 ・施工により旧流路、本川の生態系に与える影響は少ない。						
短所	・供給頻度が一定でない。 ・出水による土砂流入量が増える。 ・水路拡幅・造成に伴い、現在の耕作地の占用を解除する必要がある。						
備考	・供給した水を貯留させるためには、旧流路の掘削が必要						